

第1分野 地域資源を活かして産業を育てるまち

基本方針4

地域産業の核となる
観光・交流産業の活性化を
図ります

年度	平成29年度
責任部長	商工観光部長
責任課長	観光課長
責任課	観光課
関係課	政策推進課・情報課

【施策名】	【主管課】	【関係課】
① 観光資源の魅力向上	観光課	政策推進課
② 誘客促進・情報発信	観光課	—
③ 受入体制の強化	観光課	政策推進課・情報課

■基本方針に関連する昨今の社会経済情勢及び関連データ

◆全国・県・圏域等の状況及び関連データ

- ・国は、「観光」を経済における重要な成長分野として位置付けし、2006年に観光立国推進基本法を制定。以下、2008年に観光庁を設立。2013年に訪日外国人旅行者が1,000万人を突破し、観光ビジョンにおける2020年目標(オリンピック・パラリンピック東京大会開催年)を年間4,000万人へと上方修正。(2017実績2,869万人)
- ・東海北陸自動車道の4車線化、濃飛横断自動車道、東海環状自動車道、中部縦貫自動車道、リニア中央新幹線中津川駅開業、北陸新幹線のさらなる延伸など社会基盤整備が進められ、郡上市への交流人口は国内外ともに増加することが予想される。

◆本市を取り巻く状況及び関連データ

- ・インバウンド対策として、国(中部運輸局)は、2012年からセントレアから能登半島へ通じる観光ルートを昇龍道プロジェクトとして推進。
- ・本市では、以前より広域連携協議会(岐阜・下呂・郡上観光宣伝協議会、環白山広域観光協議会等)に参画し、国内外の観光誘客を推進してきたが、近年は、インバウンド対策が主流となっている。
- ・国内においては、2014年に実施した郡上市GAP(観光動態・観光意向)調査では、郡上市を知らない方が24.1%、知っているが行ったことがないが38.6%、行ったことがあるが37.3%。個別では、古い町並み、郡上おどり、長良川鉄道、ひるがの高原の認知度が高い。本調査後は、2015年7月から天空の城＝郡上八幡城ポスター、2015年12月に世界農業遺産「長良川の鮎」認定、2016年に長良川鉄道観光列車の運行開始等、マスコミを通じた認知度向上を推進。
- ・2017年より、観光立市郡上を市の総合施策に掲げ、「観光分野を軸とした経済の活性化」「交流人口や各地の資材磨き・掘り起しによる地域の活性化」を推進

■基本方針に従い施策を進める上での重要課題

地域産業の核となる観光・交流産業を活性化するためには、次の課題があります。

- ・民間主体による継続性を持って戦略的に観光地域づくりを進める中核的団体＝日本版DMO及び後の観光業を担っていく人材の確保。
- ・旅行者受入体制の強化(HP等の観光情報発信、トイレ整備や駐車場確保、拠点施設の整備)
- ・滞在時間の延長及び観光消費額額を高めるため、飲食・特産品・体験メニューの充実、旅行者ニーズにマッチした宿泊施設の確保・充実
- ・インバウンド対策として、看板等の多言語表示、観光業者の対応力(おもてなし)の向上、外国人が興味を示す新しい観光素材の掘り起し。

■目指す姿及び指標

目指す姿(目標)	達成状況(各年度の最新値)							
	現状値(H26)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	H31(実績)	H32(実績)	目標値(H32)	
四季を通じて、誰もがさまざまなメニューを楽しみ、満足して帰っていただける観光のまちを目指します。また、市民・事業者・行政が参加・連携して、心からのおもてなしを提供する観光のまちを目指します。								
目指す成果(成果指標)	関連施策	単位	総合戦略					
▶入込観光客数の増加	①②③	万人(フロー)		635(H27)	588	569		666
▶市内宿泊客数の増加	①②③	万人(フロー)	○	49(H27)	45	43		60
▶外国人宿泊客数の増加	②③	千人(フロー)		11(H27)	17	22		40
▶郡上市観光連盟HPアクセス数の増加	①②	千件(フロー)		645	689	778		1,251
▶観光キャンペーン実施回数の増加	②	回(フロー)		36	38	41		39
▶外国人観光客取扱実績(市観連)の増加	②③	千人(フロー)		31	27	33		52

■関連する市民アンケート調査の状況

	現状値(H26)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	H31(実績)	H32(実績)	目標値(H32)
▶							

■基本方針及び構成施策に関連する事務事業の状況について

【関連する事務事業の成果と課題】

①観光資源の魅力向上

【成果】

平成29年の郡上市観光入込客数は5,687千人となり、前年より約193千人(△3.3%)の減少となった。これは、繁忙期である7～8月、10～11月の天候不良が主な要因と考えられる。また、市内スキー場の入込客数は、早い時期の降雪があったことから、1,281千人(対前年比1.8%増)となった。

【課題】

食品サンプル体験など体験施設においては入込客数が減少しており、新たな観光客を呼び込むためにニーズを絞ったモデルコースの作成や新たな観光コンテンツの掘り起しが必要となってきた。

②誘客促進・情報発信

【成果】

外国人観光客数取扱い実績について市観光連盟による送客手配件数は増加している。台湾旅行社へのキャンペーン活動を積極的に行ってきたことが一定の成果を上げていると考えられる。また、タイへのセールスコール・招へい事業等キャンペーン等を行ってきたことの結果として、タイからの市内宿泊者は6,238人(前年比345.6%)と大幅に増加した。

【課題】

外国人宿泊者については、増加傾向にあるが、国内を含めた観光入込、宿泊者については平成27年度をピークに減少傾向にある。

国内海外問わず、団体旅行から個人旅行者旅行へ傾向が変わっていきことから個人旅行者向けのモデルコースの作成、リピーターを呼び込むための、新たな観光コンテンツを引き続き掘り起こすとともに、他にはない産業観光商品の造成に取り組む必要がある。

③受入体制の強化

【成果】

高速バス郡上八幡インターバス停の利用者が、八幡市街地に容易に到達できるようにするためのデマンドバスの運行を開始し593人の利用があったほか、引き続き下呂、高山等の飛騨方面から郡上市内に滞在できるようにするため、下呂-八幡間のバス運行を実施し、二次交通対策を行った。宿泊施設においては、宿泊施設改修支援事業による宿泊事業者のインフラ整備等の支援を行った。

観光における中核団体の育成・確保を図るため、郡上市観光連盟にプロパー職員1名を確保するとともに、組織強化を図り、平成30年2月に一般社団法人化した。

【課題】

固有資源の観光商品化および商品同士を関連付け、地場産品を活用した飲食サービスや土産物販売による域内調達率の向上、滞在時間の長期化を促す周遊ツアーやアクティビティの提供、地元ガイドによる案内、伝統産業や芸能、地域行事などのユニークな体験機会の提供に取り組むことが必要である。

【決算データ及び構成事務事業の実施状況】

施策名	H28決算額(千円)	H29決算額(千円)	構成事務事業の実施状況(H29)				
			a	b	c	d	小計
① 観光資源の魅力向上	55,295	59,941	0	4	0	0	4
② 誘客促進・情報発信	86,641	245,178	0	7	1	0	8
③ 受入体制の強化	156,935	347,363	2	7	0	0	9
小計	298,871	652,482	2	18	1	0	21

a: 順調に実施されており、成果が表れている事務事業

b: 概ね順調に実施されており、一定の成果が表れている事務事業

c: 概ね順調に実施されているものの、目指す成果が表れていない事務事業

d: 実施状況及び目指す成果ともに停滞している事務事業

■総合評価(基本方針に基づき目指す姿がどのような状況にあるか)

総合評価

C

目指す姿に向けてあまり順調といえず、一層の努力を要する。

【成果指標を踏まえた評価及びその理由】

入込客数など、気象等の不可抗力に大きく左右される指標もあるが、目標値を見る限り順調とは言えないのが現状といえる。国内外を問わず、団体からFIT化の傾向が見られるなど、情勢の変化を踏まえた適切な施策企画・展開を進めていく必要がある。

①観光資源の魅力向上

新たな観光客を呼び込むためにニーズを絞ったモデルコースの作成や新たな観光コンテンツの掘り起しが必要となってきた。

②誘客促進・情報発信

海外向けキャンペーンの実施は、一定の成果を上げているが、国内旅行者が伸び悩んでおり、国内向けキャンペーンの強化が必要となっている。

③受入体制の強化

受入体制については、宿泊施設改修支援事業などを行っているが宿泊者数の増加につながっていない。

【アンケート等市民の意見を踏まえた評価及びその理由】

■今後の展開

【今後の展開】

・郡上らしさを活かし、郡上ぐるみで魅力ある観光地“郡上”を創るため、郡上ならではの観光事業を興す人と仕組みづくりを推進する。また、人もの情報の交流を通して“観光立市郡上”の知名度を高めるとともに、暮らす人や訪れる人の満足度を高めることができる環境や観光諸条件の整備を推進する。

①観光資源の魅力向上

固有資源の観光商品化および商品同士を関連付け、地場産品を活用した飲食サービスや土産物販売による域内調達率の向上、滞在時間の長期化を促す周遊ツアーやアクティビティの提供、地元ガイドによる案内、伝統産業や芸能、地域行事などのユニークな体験機会の造成を進める。

②誘客促進・情報発信

引き続き国内外を問わず、キャンペーン、商談会へ積極的に参加し、“観光立市郡上”の知名度を高め誘客に努める。

③受入体制の強化

平成30年度中に名古屋から郡上への高速バスが2路線増加する予定となっている。また、引き続き宿泊施設改修事業助成を行い滞在型の観光誘客に努める。

【具体的な手法又は事務事業名等】

①観光資源の魅力向上

平成32年度の入込観光客数666万人に向け、郡上市観光立市人材育成事業による観光塾を柱に人材育成に努め、さらには、郡上市観光連盟の日本版DMO化を促進して、既存観光資源のブラッシュアップや他にはない産業観光商品の造成を図るとともに、郡上市観光連盟及び7地域の観光協会による各種キャンペーン及び商談会等への参加を引き続き支援する。

②誘客促進・情報発信

国内外を問わず、キャンペーン、商談会への積極的な参加、SNSを活用した情報発信に努めて“観光立市郡上”の知名度を高め誘客に努める。

③受入体制の強化

入込客数の増加や宿泊客数の増加に不可欠な受け入れ体制の強化について、外国人観光客に観光地として選択される必要があることから、宿泊施設改修支援事業による宿泊事業者のインフラ整備等の支援内容の見直しを適宜行いながら平成32年度の外国人観光客取扱実績52千人及び外国人宿泊客数40千人を目指す。

■関連する個別計画の有無

有

第2期郡上市観光振興ビジョン
郡上市まち・ひと・しごと創生 総合戦略